



平成26年12月3日

第70号 南東部地区会議

日時： 12月3日13時～15時
場所： 福山市エフピコRiM 7階会議室
主催： 広島県支部南東部地区
協力： 福山市危機管理防災課
参加者： 22名（地区防災士）

1. 開会挨拶

- (1) 岩崎地区幹事：今年には災害が多発した。「広島土砂災害」は74人もの死者が出た。30日も捜索・救出活動が続いた。また「御嶽山の噴火」や「長野県北部地震」も発生し県内はもとより、国中で自然災害に対する防災・減災の重要性が改めて認識されている。
- (2) 福山市役所危機管理防災課矢野課長：災害の発生に対しては防災士への期待は大きく、福山市も防災リーダーの養成に取り組み、今後も継続して行きたい。福山市にも土砂災害危険箇所や活断層3本も存在し、地域自主防災組織計画の促進、防災力の向上などに取り組み、防災士の活躍を期待している。

2. 広島県支部H26年行事報告

- (1) 広島県支部会報第60号（3月15日）～第69号（9月23日）が県内各地区の防災士活動として報告されている。以下一部紹介。



第65号報告（左）
尾道市立向東中学校での防災研修会の様子



第67号報告（右）
「広島土砂災害」の救援に参加
（広島県支部中央地区6人、
西地区8人、安佐地区1人計15人の防災士が参加）
土石流による大量の瓦礫、を懸命に除去作業に取り組む



第63号報告（左）

赤十字救急法基礎講習実施
傷病者の意識確認ワーク

指導員は中川久美子、鎌田美恵子、岡田恭子、
支援は妹尾睦子の計4人の地区内防災士

(2) H26年度南東部地区会員の確認報告

福山市：18人 尾道市：6人 三原市：13人 府中市：3人
世羅町：4人 呉市江田島市：4人 計：48人

（参考：広島県認証者1,045人、会員147人、日本認証者78,718人、会員6,354人）

3. 日本防災士会 DVD 鑑賞 （15分）

総務省消防庁監修「地震・・・その時に備えて」を参加者で鑑賞した。
阪神淡路大震災から防災士が誕生した経緯と防災士の必要な背景が説明されている

4. 「広島土砂災害」から学ぶ！ PPで説明 （桑木光信）

土木学会・地盤工学会の協同調査報告と報道写真特集などをもとに防災士として教訓として活かし、今後の啓発活動に役立てたい主旨から紹介説明された。特に両学会で調査され究明された気象現象、土石流の発生と溪流の崩壊、土石流の幅・深さ、山地の浸食、波状発生、住宅地への流路、岩石の種類・サイズ、治山ダム崩壊、住宅破壊等、15～30年ごとの発生、改善事項として早期危険雨量予測体制の確立と地域の早期避難体制が必要と指摘。また「広島土砂災害」を教訓としての防災士の思い、防災士の役割の確認などを内容としたもの。

5. 各市町活動報告

福山市、尾道市、三原市、府中市、世羅町の活動状況が市町代表から説明報告された。

「広島土砂災害」の発生と被害の大きさが地域防災の重要性を改めて認識させ、防災士や行政、関連部門との協力等により地域住民への啓発活動の取り組みを一層促進して行くきっかけになると感じた。

6. あとがき

8月20日の「広島土砂災害」は被災者はもとより、県内の行政、関係機関始め防災士や県民にとってもショックであった。TVや新聞での報道は自然災害の怖さを教え、防災・減災の意識と備えの不備、脆弱さを認識させられるものであった。この現実を教訓として今後の地域の防災力の向上に取り組まねばならない。
(広報担当 桑木)